

4 新潟大学小児科における後期専門研修の取り組み — 卒後臨床研修必修科目担当診療科の立場から —

小林 武弘

新潟大学大学院医歯学総合研究科
内部環境医学講座小児科学分野

Pediatric Residency and Fellowship Program in the Niigata University Hospital

Takehiro KOBAYASHI

*Division of Pediatrics,
Department of Homeostatic Regulation and Development,
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

要 旨

平成16年に開始された新しい卒後臨床研修を修了した研修医が平成18年より各科で後期専門研修を開始した。新潟大学小児科の後期専門研修プログラムは、高度な専門性を有しながらも小児医療全般に対応できる小児科医の育成を基本的な考え方としている。研修期間前半(卒後3~5年)は一般小児科医としての研修を行い、小児科専門医を取得する。後半(卒後6~9年頃)は専門分野の研修と研究を行う。各人の意思を尊重し多様な希望にも柔軟に対応することと、国内外の施設への留学を積極的に勧めることを特長としている。より具体的な行動目標の設定と研修の評価システムの構築が当面の課題である。また、増加しつつある家庭を持つ女性医師の研修継続のための支援を充実させる必要がある。

キーワード：後期専門研修、小児科専門医、研修プログラム、評価システム

はじめに

平成16年度に新しい医師臨床研修制度が開始されたことに伴い、後期専門研修のあり方について各科で検討がなされている。ここでは、卒後臨床研修必修科目担当診療科の立場から新潟大学小児科における後期専門研修の取り組みについて紹介したい。

小児科必修研修について

厚生労働省による卒後臨床研修の到達目標において小児科の経験目標は、「小児の診察(生理的所見と病的所見の鑑別を含む。)ができ、記載できる。」とあり、経験が求められる疾患としては小児けいれん性疾患、小児ウイルス感染症など一般的な疾患が挙げられている。原則2年目に1ヶ月以

Reprint requests to: Takehiro KOBAYASHI
Division of Pediatrics Department of Homeostatic
Regulation and Development Niigata University
Graduate School of Medical and Dental Sciences
1-757 Asahimachi-dori Chuo-ku,
Niigata 951-8510 Japan

別刷請求先：〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学大学院医歯学総合研究科内部環境医学講座
小児科学分野 小林 武弘

上の研修が義務付けられており、新潟大学病院では6週間、県内の管理型病院のほとんどにおいては6週間から2ヶ月の研修期間となっている。これらの目標や研修期間からは、小児患者に慣れること、及び小児（特に救急）患者への初期対応ができるようになることが小児科必修研修の主眼であることが窺われる。平成17年に行った県内各病院の小児科指導医を対象としたアンケート調査では、ほとんどの研修医は熱心に研修し研修目標の60%以上を達成していると評価されていた。また指導医のほとんどが小児科必修研修の意義を認めているという結果も見られた¹⁾。

新潟大学小児科での後期研修の開始

新医師臨床研修制度開始以前の11年間（平成5年～15年）において新潟大学小児科で研修を開始（いわゆる直接入局）した医師は95名（年平均8.6名）に上り、男性医師が72%、女性医師が28%であった。平成18年度は9名が後期研修を開始したが、男性4名、女性5名と初めて女性医師の数が男性医師を上回った。9名のうち4名は新潟大学病院、4名は県内管理型病院、1名が県外管理型病院で初期研修を行っていたが、全員が選択科目期間には小児科を選択しその研修を行っていた。

後期研修を開始するにあたって必修科目として研修することの利点は、研修医が小児科の医療を実際に経験した上で将来の専門として選択していることが挙げられる。初期研修中に適性や興味、意欲といった面から進路を十分検討することができ、その結果として、平成18年度において当初は他の診療科を志望していた研修医が小児科を選択したケースもあれば、逆に小児科から他の診療科へ変更したケースも見られた。また、小児科における診療能力という点については、選択期間でも研修していることもあり後期研修開始時には既に多くのことを習得していた。そのため研修医の後期研修への移行も円滑であったものと思われる。

新潟大学小児科における後期研修プログラム

小児科の診療では、子どもたち一人ひとりを臓器から診るのではなく、身体や精神はもちろん、生育環境も含めて全体的にとらえることが重要である。その一方で、医療の急速な進歩に伴い小児科各分野のサブスペシャリストも必要とされている。これらのことから、新潟大学小児科の後期研修プログラムでは、高度な専門性をもちながらも、小児科医療に幅広く対応でき、全人的医療を実践できる小児科医を育成することを基本的な考え方としている。

プログラムは、小児科全般の研修（卒後3～5年）と専門分野の研修と研究（卒後6～9年頃）から成る。前者は一般小児科医としての研修に相当し、大学病院や関連基幹病院をローテートしながら、多様な小児疾患、小児保健、小児救急、新生児医療などについて研修する。初期研修2年間に加えこの3年間の研修中に必要な症例を経験することにより、日本小児科学会小児科専門医試験の受験資格が得られる。また、この期間に将来の専門分野の決定を行う。

卒後6年目からは、専門分野の研修を行う。新潟大学小児科には腎臓や循環器など6診療グループがあり、そのいずれかに属して研修を行う場合と、専門分野に特化した関連病院小児科（県立がんセンター＝血液悪性腫瘍、西新潟中央病院＝神経、等）で研修する場合とがある。加えて、国内他施設（国立循環器病センター、国立精神神経センター、国立成育医療センター等）での研修も積極的に勧めている。

科学的考察力の涵養や医学の進歩への貢献といった見地からは、臨床医であっても研究を経験しておくことは大切であり、専門分野の研修期間に合わせて研究活動を行う。基礎研究の場合は2年間を目安として、新潟大学小児科、学内外の基礎医学教室、国内外研究施設で研究を行う。臨床研究の場合は、臨床研修と並行しながらデータを蓄積する。これらの研究の成果として論文を著し、学位を取得する。

この小児科後期研修プログラムの特長として

は、専門分野や進路の決定などについては各人の意思を最大限尊重し多様な希望にも柔軟に対応するため、言わばオーダーメイドの研修も可能であることが挙げられる。加えて、国内外への留学を積極的に勧めており、過去14年間で約70名が希望する国内外の施設で臨床研修や研究を行っていることも特筆される事項である。

当面の課題

落ちがなく効率のよい研修を行うためには研修目標を設定し、その達成度を評価することが重要である。この小児科後期研修プログラムにおいては、未だその点で十分とは言えない。特に前半の小児科全般の研修は複数の病院をローテートする

こともあり、次の研修病院を決めるためにも、その時点で既に習得したことや更なる研修が必要な分野等を把握しておく必要がある。より具体的な行動目標を設定すること、および研修医や関連病院指導医を交えた研修の評価システムを構築することが当面の課題と言える。

また、最近女性医師が増加しつつあり、この傾向は今後も続くことが予想される。家庭を持つ女性医師が研修を継続するための支援を充実させることも重要である。

文 献

- 1) 小林武弘：必修科目としての小児科研修の現状と問題点. 新潟医学会雑誌 121: 250-253, 2007.

5 新潟大学整形外科における後期研修の目指すところと現状

遠藤 直人

新潟大学大学院医歯学総合研究科
機能再建医学講座整形外科学分野
(医学部整形外科学教室)

The Goals of the Course in Orthopedic Surgery in Niigata University

Naoto ENDO

*Division of Orthopedic Surgery Department of Regenerative and Transplant Medicine
Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences*

はじめに

新臨床研修制度が平成16年、2004年に開始さ

れ、平成18年4月にはその一期生が後期研修を開始した。いままでとは異なるシステムであり、大学以外に多くの研修病院も後期研修医を受け入

Reprint requests to: Naoto ENDO
Division of Orthopedic Surgery Department of
Regenerative and Transplant Medicine
Niigata University Graduate School of Medical
and Dental Sciences
1-757 Asahimachi-dori Chuo-ku,
Niigata 951-8510 Japan

別刷請求先：〒951-8510 新潟市中央区旭町通1-757
新潟大学大学院医歯学総合研究科機能再建医学講座
整形外科学分野（医学部 整形外科学教室）
遠藤 直人